

うつけ通信 vol.7

1月30日に東京の永田町でイネイ
ト実践研究会主催による講演会が開
かれました。今回のうつけ通信はその
とき講演された宮本先生のお話を抜
粋してお届けします。

災難除けの方法

最近は大地震や津波など、想像を
超える災害が発生しています。そ
ういったものを防ぐとか、あるいは
そういうことが起こっても自分だけ
は逃れる方法はないかと相談を受け
ることがあります。ばくもそんなこ
とを知っているわけではないので
が、こうではないだろうかというこ
とまでは解かっているんです。

例えば先日 スマトラ沖地震によ
る津波ですが、被害にあったのは人
間だけだということ。向こうに
は象やら水牛やらがいるんですけど、
彼らは津波が襲ってくる直前に突然
丘のほうに逃げ出したという記事が
新聞に掲載されていました。逃げな
かったのは人間だけだったのです。ね。
象さんあなたは私よりも賢いんで
ねと思っている人は一人もいないで
すけど、でも実際には象のほうが一
先に逃げているわけです。そこにヒ
ントが隠されているわけです。

知識を持ち、言語を使うことが出来るものよ
り、出来ないもののほうが直感に優れているし、
予知も出来るということが言えます。予知とい
うと神懸かって聞こえるかもしれませんが、象
は人間の何万倍も聴覚が優れている。この聴覚
で沖の大地震を捉えたわけです。それで危険を
察知して丘に逃げた。象も水牛も人間に比べて
はるかに優れた五感を持っているわけです。犬
が人間の何万倍も優れた嗅覚をもっている
のも同様です。難を逃れるために、象並みの聴
覚、犬並みの嗅覚になりなさいということでは
ありません。そんなのは犬にならないと無理で
す。明日からワンワンと言わなければなりませ
ん(笑)。そうではなくて、人間に比べて下等と
見なされている動物や植物をバカにせず、尊重
する、教えてもらうという態度になれば、地震
の予知や津波の予知は可能になるということ
です。

さらに象や水牛などの動ける動物にくらべ、
落ちたタネの位置から逃れられない動くこと
出来ない植物は、動物の何十万倍もの予知能力
をもっている。さらに根を出し花を開かせるこ
との出来る植物より、もっともっと見下されて
いるもの、岩石や土や、水や空気といった無生物
たちですね。これらを尊重する意識でみると、彼
らはものすごくいるんなことを教えてくれるわ
けです。土や空気のごき、人間の言葉で言う
「賢い」ということが解明されてくるわけです。
災難を逃れたり、新しいことに気づいたりとい

うことは、一般に見下されている存在を自分よ
り高い位置において観てみることから可能にな
るといふことです。

地樽(うちだる)の法則

これはドベネックの樽というもののなのですが、
これは最小率の法則というものを表すためのも
のなんです。最小率とはどういうことかとい
いますと、モノの価値というものはそれを構成
するそれぞれの要素うち、最低のレベルのもの
に支配されるということなんです。樽の目的は
水を入れることですから、どれだけ水が入るか
ということがその樽の価値ということですよ。ね。
この樽を形作っている木は、その高さがそれぞ
れちがうのですが、この樽にどれだけ水が溜め
れるかという、樽を組んでいる木のうち最低
の高さのところまでしか水が溜まらないとい
うことなんです。



これを住居に置き換えると、例えば最高の材木ば
かりを使って建てた家があったとします。吉野
杉から秋田杉まで入れて、大黒柱はクスノキで

すよと。でも例えば基礎に欠陥があつてすぐに崩れるような家であつたら、せつかくのいい材木をつかつていても意味がなくなるわけです。つまりその家の価値はその最低のレベル、ここでは基礎のレベルに従うということです。こういうことが意外と日本の教科書には載っていないわけです。

食糧生産も一緒です。たとえば何々の微生物がよいと言つて、そこに最高の微生物を投入したとしましょう。でも、水がなかったら、日が当たらなかつたらどうでしょう。そこで育つ作物はその最低の条件に従つたものが出来るわけです。だから、一人あるいは一つだけを抽出して云々する現代のミノモントタさんのお話は信用できないですよということ。テレビ局は来ないやろね(笑)。

だから低くても良いから全体の調和が必要なんですよということ。ただし、調和ということとはどこへ行つても話されていることです。聖徳太子の時代から和と言つてきているわけですから。でも、調和しているかどうか、トータルでバランスが保たれているかどうかを判る方法、そして樽の最低ラインがどこにあるか見破る方法はどこに行つても教えてもらえません。今日はこの方法を知つてかえつてもらえたらと思つています。

後退学

それはね、物事を突つ込んで見るのではなくて、

引き下がつて見ることもなんです。例えばここに林があるとき、そこに突つ込んでいくと、林が木になり、木が枝葉になり、枝葉が葉緑素になつてしまします。これを前進する学問ということ。前進学といひます。前進学も必要なのですが、物事を判断したり見抜いたりする位置や視野としては適当ではありません。葉緑素に目を奪われたら、林というものは何であるかが見えなくなる、本質が見えなくなるといふことです。最初に目的としたものや最初に知りたかつたものからどんどんズレていってしまうわけです。家もたとえば使われた材木だけに目を奪われると、全体が見えなくなり、健康に幸せに暮らすための環境「いふ本質からズレてきます」。

でも、引き下がつてみるとそのものの全体が見えて、その正体がかめまします。林が森になり、森が山になり、山が最終的には地球になります。そこから物事を眺めると、正しい答えが見えるようになりまします。私たちが生きていふということとも、バックしてみると、「地球の上に生きていふ」といふところから眺められるようになりまします。自分が生きていふのはもちろん親の恩も祖先の恩もあるわけですが、もっとバックすればその祖先すらも地球のおかげで存在できたわけです。バックすることで最も大きな大恩が見えてくるわけです。それが地球なんです。ところで見なさん、地球にありがとうと言つたことありますか。言つても損しませんから一遍言つてみましょう。礼を言われて気分が悪い

人はいいですから、地球も地球さんありがとうございませうなんて言つたら、ひよつとしたらさつきの話に出た天災なんかがあつても助けてくれるかもしれませぬね。



イラスト 池尻真由美

編集後記

謙虚になるとか、相手を尊重するということ。人は人に対してのことだけではないよ。うです。そして、人間以外の存在に対して謙虚になるといふことで、本当の世界が観えてくるのでしよう。宮本先生を通して生まれた数々の発明発見はあらゆるすべてを尊ぶ姿勢が原点になつていふのだと感じました。(辻)

宮本先生三回連続セミナー in 大阪のお知らせ

第二回 3 / 13・第三回 4 / 10 の会場が決定しました。
『見進ビル8階』 JR「京橋駅」北へ徒歩1分
開場 12時30分 講演 1時~4時45分
問い合わせ先 ゼロ企画関西支部 担当 辻

(0724) 67-0644